

令和7年度 文学部 歴史学科 学校推薦型選抜 小論文

○出題意図・評価のポイント

【出題意図】

出典はオルテガ・イ・ガセット著、佐々木孝訳『大衆の反逆』岩波文庫、2020年（原著初版は1930年）である。出題は、「この文章を踏まえて、現代社会における歴史との向き合い方についてあなたはどのように考えるか、具体例をあげながら八〇〇字以内で論じなさい」である。

課題文は20世紀前期の文章だが、情報が急速かつ膨大に入手できるようになった現代社会の出発点とされる時代である。筆者は、大衆社会において、人びとが過去の歴史に対する想像力を失ったことへの懸念を綴っている。しかし筆者は、そのことによってどのような問題が起こっているかは具体的に例示していない。

この課題文の内容を正確に読み取ったうえで、現代社会においても同様のことが起こっているか、あるいはそうではないと考えるかはともかく、その結論を導くための的確な具体例を挙げ、論理的に文章を構成することが求められる。筆者の語らなかつた歴史的想像力の欠如の招いた結果を具体的に考えることができるかどうか、日頃現代社会における諸問題にいかに目を配り、それらを歴史学と結びつけて思考しているかを問う出題である。

【評価のポイント】

評価する点は次のとおり。

- ・課題文の内容（下線部）を正しく読み取れているか。
- ・自分自身の考えを導くうえで適切な具体例を挙示できているか。
- ・論理的に説明できているか。
- ・文字表記・文法・言葉の用法等、文章上の問題はないか。

以上の諸点を総合的に判断する。